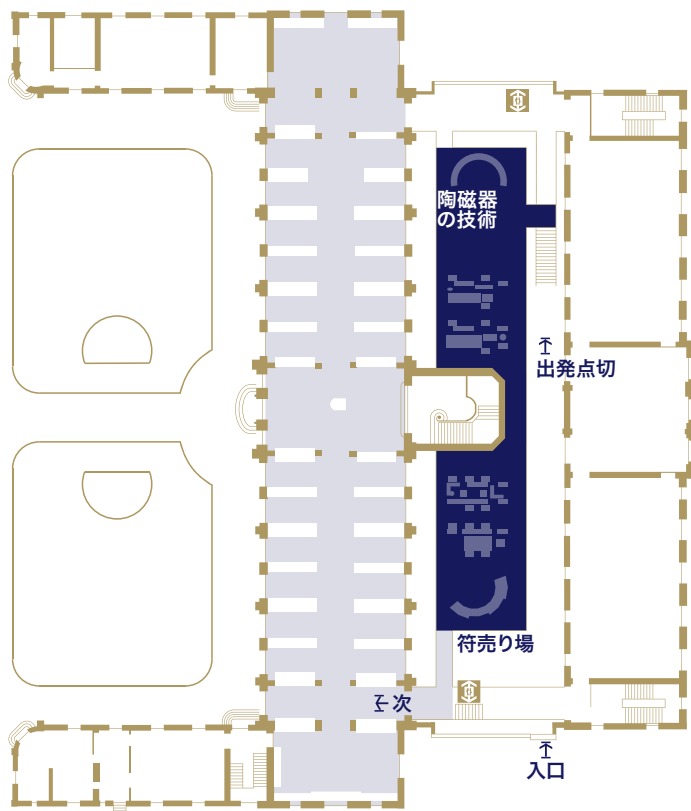


# 中二階 製造



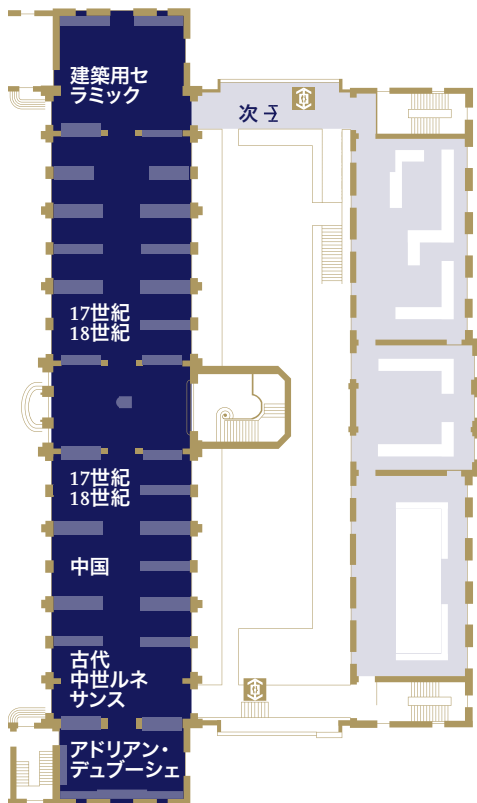
## 庭

博物館の敷地に入ると、『連続』と題されたジャン=ピエール・ヴィオとハギコ作品が来館者の目を引きます。これは、白いコンクリートを600個のほうろう引きセラミックのボウルで覆った碑で、2010年に博物館のために製作されました。庭では、ハビエル・ペレス作『泉』と題する磁器製の謎めいた人間の頭から、水が吹き上がっています。

## 2階

博物館の拡張工事で建てられた非常に明るい2階のフロアでは、セラミックの製造を4つの工程から解説しています。そこには、リモージュ焼きの歴史を物語る古い機械に加えて、最新の道具が並べられています。

# 古代から18世紀までのセラミック



## レベルI

年代を追った見学のスタートは、1900年に落成した博物館の荘重な展示室から始まります。見事な装飾の中に、当時のままのショーケースが保存され、18世紀までの陶磁器の歴史の工程が解説されています。

### アドリアン・デュブーシェ

最初の展示室では、博物館の歴史を解説します。この部屋では、芸術の庇護者で慈善家であったアドリアン・デュブーシェを紹介しています。1875年以来、博物館は彼の名を名称に使うようになりました。

### 古代、中世、ルネサンス

このセクションの最初は、考古学上の発掘調査で見えられた、ギリシャのポトリ（陶器）や中世の釉薬陶器で始まります。続いて、ルネサンス時代の有名なイタリアのマヨリカ焼ファイアンスが紹介されています。

### 中国

中国は長い間、陶磁器を生産する唯一の国でした。中国陶磁器の歴史を物語る数々の傑作が紹介されていますが、とりわけ白地に青で描いた文様は有名です。また、日本の陶磁器のコレクションもあります。

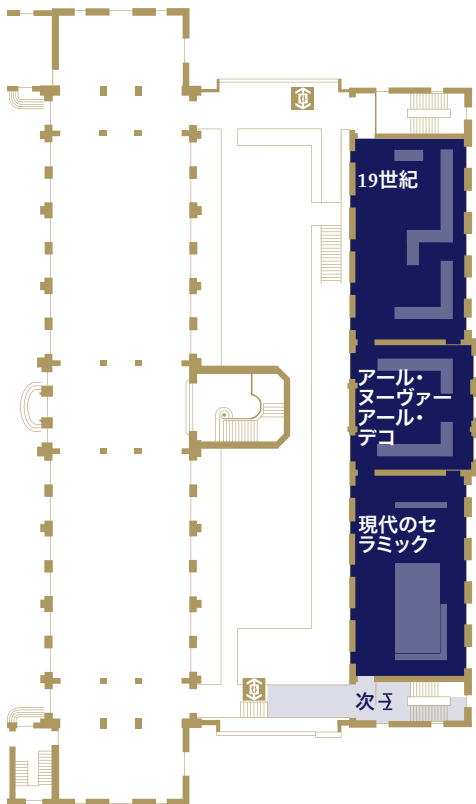
### 17世紀 - 18世紀

ファイアンスはヨーロッパで飛躍的に発展しました。各地で生産がさかんになり、オランダのデルフト、ルーアン、ヌヴェール、ムステイエ、ストラスブールなどがその中心都市として知られるようになりました。同時に、1710年から陶磁器を生産するようになったドイツでの製造（マイセンの製陶所）や、カオリンが採れない国々で作られる軟質磁器の製造と比較して紹介しています。このギャラリーの最後のショーケースでは、リムーザン地方のカオリン粘土を含む地層が発見されたことで、フランスでも硬質磁器が作れるようになったことが理解できます。

### 建築用セラミック

このスペースでは、中世から19世紀までのタイルセレクションを集めています。

# 19世紀から現在に至るまでのセラミック



## 19世紀

当時幅広くコレクションを集めていたアドリアン・デュブーシェの寄贈により、博物館は19世紀の極めて貴重なコレクションを保有しています。年代順の展示によって、ヨーロッパ装飾美術の潮流の中の陶磁器の変遷、すなわち新古典主義、ロマン主義、東洋趣味、日本趣味、印象主義等を知ることができます。

## アール・ヌーヴアー、アール・デコ

アール・ヌーヴアーは20世紀初頭に流行しました。エクトール・ギマールを象徴する作品を中心に、この時代の審美観を反映した陶磁器が展示されています。この流れに対抗するように生まれたアール・デコは、1925年に開催された「パリ万国装飾美術博覧会」（略称をアール・デコ博）にちなんでつけられ、フォルムやデザインに大きな革新をもたらしました。

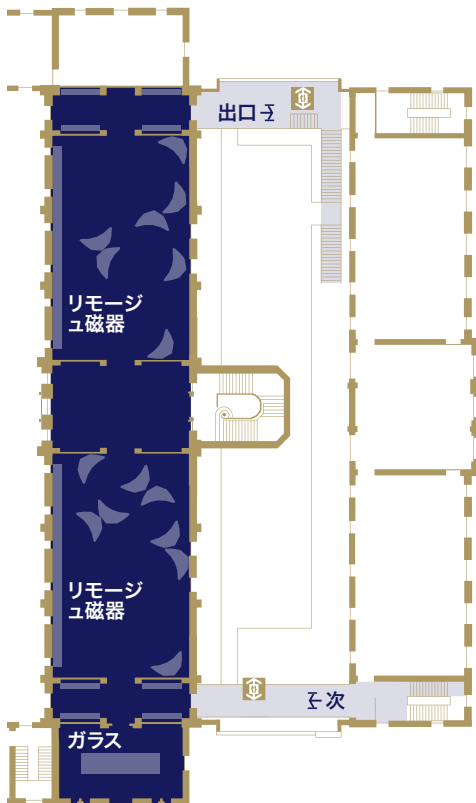
## 現代のセラミック

陶磁器に関心をもつ著名なアーティストは数多くいました。当博物館は、ラ・ボルヌの炆器（モーリス・ランビオットの寄贈）や、セラミック材料がもたらす可能性に惹かれた独立美術家の作品も紹介しています。

## レベル2

アドリアン・デュブーシェは、陶磁器工業で働く能力をもったアーティストを養成しようと、装飾美術学校を創設しました。機能的な理由から、建物は歴史博物館に隣接されて建てられました。現在はひと続きとなっており、かつては教室だった3つのスペースに渡って、19世紀から現在に至るまでのコレクションが展示されています。テクニックを紹介した常設ギャラリーでは、学びながら充実した見学ができます。

# リモージュ陶磁器



## ガラス

初期に使われた装飾を展示する部屋では、ガラスの歴史を築いたテクニックの変遷を知ることができます。古代の鑄込ガラス、16世紀から17世紀にかけてのヨーロッパで流行した「ヴェネチアン風」グラス、クリスタル、エッチングガラス等が紹介されています。

## リモージュ磁器

最初の部屋では、最初の製陶所が作られた1771年から、磁器産業のピークを迎えた19世紀後半までのリモージュ磁器の歴史の大きな流れを解説しています。順番に傑作を見ながら、製陶所を紹介しています。特別サロンに展示されているテーブル装飾一式「グラン・ド・リ」は、19世紀のリモージュ焼き技術の集大成と言える代表作です。

2つめの展示室では、アール・ヌーヴォーやアール・デコといった、20世紀初頭以来、リモージュのスタイルをリードしてきたデザインが紹介されています。様々なジャンルの作品が年代順に展示されています。また、現代の創作にも広いスペースをあてています。こうした展示品を見れば、リモージュの磁器が、テーブルアートや芸術創作の分野で、現代もなお力強い表現を続けていることが伝わってきます。

## レベル3

当美術館は、世界でもここだけしかないリモージュ陶磁器のコレクションを所有しており、18世紀から現代に至るまでの歴史を解説しています。天頂から射し込む光に包まれた超コンテンツポラリーなフォルムをもつウィンドウが、この貴重なこのコレクションに、幻想的な宝石箱の役目を与えています。